

【応募内容】

応募内容には以下の内容になるべく含めていただく

- ・この取り組みの概要と、取り組もうと考えた背景や課題について
- ・実際にどのような工夫を行い、どのように運用しているか
- ・この取り組みが、専攻医の学習や成長にどのような影響を与えたと考えているか
- ・指導医やプログラム運営の面で、どのような変化や効果があったか
- ・限られた資源や地域特性など、背景となる条件の中で特に工夫した点
- ・この取り組みから、他のプログラムが参考にできそうな点や、今後の展望について

【応募テーマ（いずれか1つを選択していただく）】

①教育的工夫	Workplace-based assessment の運用、フィードバックの工夫、ポートフォリオ作成支援、レジデントデイの使い方など
②プログラム運営	指導医負担軽減の工夫、教育活動の評価、遠隔指導、ICT の活用、組織作り、連携施設の巻き込み、カリキュラム評価など
③地域性を活かした研修	へき地・離島での研修設計、地域包括ケアなどで他職種連携を活かした研修、地域志向ケアなど
④専攻医支援	メンター制度、メンタルヘルスへの配慮、ウェルビーイング、学習コミュニティづくり、心理的安全性などにおける工夫
⑤その他	学習会の工夫、限られた資源での取り組み、リフレクション、SDH の取り組み、教育システムの革新などユニークな取り組み

【評価について】

評価基準として以下の6軸で評価する

創意工夫 (Innovation / Originality)	どれくらい新しいアイデアか、独自の視点か
文脈適応性 (Contextual Fit)	制約がある中での創意工夫、限られたリソースで成果、離島・へき地などの地域性を活かすなど、資源状況や地域課題に即した取り組み
転移可能性 (Transferability)	他のプログラムでも活用できるアイデアか
教育効果 (Educational Impact)	専攻医へのインパクト、成長への寄与
運用効果 (Operational Impact)	運用へのインパクト、時間やコストの節約、効率の向上など
持続可能性 (Sustainability)	継続した改善の取り組み、無理のないやり方で継続して実施できる取り組みか

平均化して合計点数を評価する加点式ではなく、どの軸で強みを発揮したかが見えるような多面的プロフィールとして行う

規模の大きさではなく、工夫の質と独自性で評価

優れているからだけではなく、他のプログラムが学ぶことができるからという点に重点を置いて評価する
受賞の際の理由として「この取り組みが他のプログラムの参考になる理由」をあげるようにする

【各評価軸のアンカーについて（案）】

	3点	2点	1点	0点
① 創意工夫	これまでにない発想・独自の視点が明確で、課題の捉え方自体が新しい	既存の手法を工夫・再構成し、独自性が感じられる	一般的な方法だが、丁寧な実践や小さな工夫がある	既存の取り組みの紹介にとどまり、工夫点が不明確
② 文脈適応性	限られた資源・地域特性（へき地、離島、小規模など）を強みに転換している	資源や制約を踏まえた現実的な工夫がなされている	文脈への言及はあるが、工夫との関係がやや弱い	プログラムの背景や文脈がほとんど示されていない
③ 転移可能性	他プログラムが「考え方」や「構造」を応用しやすい示唆が明確	条件付きで他プログラムにも参考になる	特定の条件下でのみ成立し、応用のヒントが少ない	そのプログラム固有で、他への示唆が乏しい
④ 教育効果	専攻医の成長や行動変容が具体的に示されている	専攻医の学習・理解・満足度向上への寄与が示されている	教育的意義はあるが、効果が抽象的	教育効果がほとんど示されていない
⑤ 運用効果	指導医負担軽減・効率化・時間やコスト削減が明確	運用改善への一定の効果が認められる	机上での改善はあるが、運用面の効果が不明確	運用への影響がほとんど示されていない
⑥ 持続可能性	無理なく継続でき、改善サイクルが組み込まれている	継続実施されており、今後も続けられそうである	短期的・試行的取り組みにとどまっている	一過性で、継続の見通しが示されていない

【応募内容と評価の対応】

0. 基本情報（応募フォームに記載していただく）

- ・プログラム名
- ・応募テーマ（①～⑤）
- ・プログラム規模（専攻医数、指導医数、施設数など）
- ・主な地域特性（都市部／地方／へき地／離島など）

⇒評価軸②文脈適応性の前提情報

1. 取り組みの概要（Why／What）

- ・この取り組みの概要と、取り組もうと考えた背景や課題について

⇒評価軸①創意工夫と②文脈適応性についての情報。「何をしたか」だけでなく「なぜ必要だったか」を書いてもらう点がポイント。そこからの工夫を評価する

2. 具体的な工夫・実践内容（How）

- ・実際にどのような工夫を行い、どのように運用しているか

⇒評価軸①創意工夫と⑤運用効果についての情報。運用のリアリティが出るとよい

3. 教育的な工夫・専攻医への影響（So What）

- ・この取り組みが、専攻医の学習や成長にどのような影響を与えたと考えているか。

⇒評価軸④教育効果についての情報。定量データがなくても「変化の実感」でかまわない

4. 運営・指導医側への影響（Side Effects）

・指導医やプログラム運営の面で、どのような変化や効果があったか。⇒評価軸⑤運用効果についての情報

5. 工夫のポイントと文脈（Context）

・限られた資源や地域特性など、背景となる条件の中で特に工夫した点

⇒評価軸②文脈適応性や⑥持続可能性についての情報。へき地・小規模 PG が「強みを語れる」設問

6. 他プログラムへの示唆・今後（Transfer & Future）

・この取り組みから、他のプログラムが参考にできそうな点や、今後の展望について

⇒評価軸③転移可能性や⑥持続可能性についての情報

設問と評価軸の対応表

評価軸	主に対応する設問
① 創意工夫	取り組みの概要、具体的な工夫・実践内容
② 文脈適応性	基本情報、取り組みの概要、工夫のポイントと文脈
③ 転移可能性	他プログラムへの示唆・今後
④ 教育効果	教育的な工夫・専攻医への影響
⑤ 運用効果	具体的な工夫・実践内容、運営・指導医側への影響
⑥ 持続可能性	工夫のポイントと文脈、他プログラムへの示唆・今後

【表彰について】

テーマごとに Good Practice 賞を設ける

各テーマで優れたものを少なくとも 1 つ、5～6 PG を「Good Practice」として選定する

どの軸で強みを発揮したかを見えるように

例：「創意工夫において特に優れていた、教育的工夫部門の Good Practice」と表現するイメージ

選出結果の通知をして、当日発表をして頂く

当日に会場投票を行い、応募テーマと関係なく最優秀賞を選び表彰する

当日の表彰についても審査員内で相談はしておく

応募された取り組みについて内容＋コメントをまとめ、学会 HP で「Good Practice Collection」として公開

応募した全取り組みを事例集として事前に作成する。会場だけでなく、学術大会の PG 紹介などの場でも配布して、PG 同士の交流などに活かしてもらう。